

「請求権問題関連文書群」の開示について

1992年8月放映のNHKスペシャル「調査報告 アジアからの訴え～問われる日本の戦後処理」で、外務省北東アジア課極秘文書「対韓経済技術協力に関する予算措置について」（1960年7月22日）が公開され、私たちは植民地支配の清算を棚上げにした日韓会談の舞台裏を知るに至った。しかし、この文書は私たちが請求し、公開された文書には含まれていなかった。外務省が廃棄してしまったのか、それとも、文書が抜き出されて通常の行政文書とは別に保管されているのか。私たちは後者の可能性に望みを託し、当該文書を単独で公開請求することとした。外務省の担当者も単独での請求に戸惑ったのだろう。関連資料はないかと問い合わせてきたほどだ。時間はかかったが、2020年2月14日に開示決定があった。文書の画像はカラーであり、さらに当時の担当者のメモもあったが、まさしく同一の文書であった。

極秘文書をNHKに情報提供していたのは外務省内の人物であることは確かだろう。その人物が何かの意図・目的で行政文書ファイルから重要文書を抜き出して整理している可能性がある。それが開示されれば、日韓会談の新たな真実が明らかになる可能性がある。そこで、私たちは2022年12月12日に当該文書が綴られた文書簿冊並びに関連する文書簿冊収録の全ての文書を情報公開請求した。そして、2023年1月11日に第1次分、12月19日に残りの文書が開示された。全部で38文書である。簿冊のタイトルが不明であるため、一連の文書等を「請求権問題関連文書群」と仮に呼ぶこととする。日韓会談で被害者個人の請求権がどう取り扱われたのか、文書群が真実の解明に資することを期待したい。